

# 仕様・概念図

## 設計いただく場合のご注意

- 必ず指定の電源切替盤を使用してください。(河村電機製、またはパナソニック製の指定品番)  
接続台数は、1台用(親機1台)、2台用(親機1台、子機1台)、3台用(親機1台、子機2台)、4台用(親機1台、子機3台)となります。
- U1形ハイパワープラス専用の電源切替盤となります。S形用の電源切替盤は使用できません。
- 自立運転中に電源供給できる接続機器は、指定の室内ユニットおよび照明、コンセント(サーキットプロテクタ付き)です。上記以外の機器は接続しないでください。
- 空調以外の負荷接続に関しては、当該機器及び本システム動作保証、品質保証は致しかねます。

### 注意

- 停電により重大な被害が想定される機器(医療機器等)、財産が損害を受けるおそれのある機器(コンピューター・冷蔵庫等)は接続しないでください。
- コンセント設置時には、接続負荷に見合ったサーキットプロテクタを設置してください。  
サーキットプロテクタは操作できる場所に設置してください。  
壁等に埋め込む場合は、点検口を必ず付けて、サーキットプロテクタを操作できるようにしてください。
- 指定された容量(発電電力)を超える負荷を接続しないでください。  
※自立運転時に接続できる負荷は最大“3.0kVA”です。
- 突入電流が大きい電気機器は接続しないでください。
- ノイズが発生する機器は接続しないでください。
- 起動電流・突入電流が大きい照明・電気機器等の場合は、自立運転(発電)が停止する可能性がありますので、スイッチを小分けにし、時間差を設けて点灯させる等の対策をしてください。

### ●ハイパワープラス接続容量制限

#### ■停電時に空調および照明・コンセントを使用する場合

	室内ユニット ※1 ※2 ※3 ※4 ※5				電気機器【例】
接続機器	4方向天井カセット形 / 1方向天井カセット形 / 1方向天井カセットスリム形 2方向天井カセット形(ナノイーX搭載機種) / 高天井1方向カセット形 天井ビルトインカセット形 / ビルトインオールダクト形 天井吊形・天井吊形(ナノイーX搭載機種) / 壁掛形 床置形(ナノイーX搭載機種) / ペリメーター用床置形(ナノイーX搭載機種) ペリメーター用床置埋込形(ナノイーX搭載機種)				照明 ※7 (LED、蛍光灯、水銀灯 ※8等) コンセント (携帯電話の充電)
接続台数	最大12台 ※6				—
接続可能容量	4~6馬力の室内ユニットのみで構成する場合		0.8~3.2馬力の室内ユニットを含む場合		最大2.0kVAまで ※9
	通常時	停電時 ※6	通常時	停電時 ※6	
電源接続先	50~200%	50~130%	80~200%	80~130%	電源切替盤 2次側

#### ■停電時に照明・コンセントのみを使用する場合(※停電時に空調を使用しない場合)

	室内ユニット	電気機器【例】
接続機器	制約なし (マルチ機に準ずる)	照明 ※7 (LED、蛍光灯、水銀灯 ※8等) コンセント (携帯電話の充電)
接続台数	最大33台	—
接続可能容量	50~200%接続	最大3.0kVAまで
電源接続先	電源切替盤 1次側	電源切替盤 2次側

- ※1. 室内ユニットは集中制御も可能ですが、個別リモコンの設置は必須です。
- ※2. 停電時に自立運転させる室内ユニット台数は、室外ユニット基板にて設定・変更できます。
- ※3. 自然気化式加湿器の接続は可能。ただし、ポンプ等付帯設備側の電源が停電になった場合はご利用できない場合があります。
- ※4. 昇降グリル付き天井パネルおよび昇降グリルメカキットの昇降機能は、自立運転時には使用できません。
- ※5. カードキー(切り忘れ防止機能)を使用する室内機は、停電時に切り忘れ防止制御回路の外部接点が発動しない場合、停電時に空調が出来ません。
- ※6. 室外ユニットの基板にて停電時に自立運転させる(させない)室内ユニットを選択できますので、条件を満たすよう設定してください。最大接続台数は自立運転させないユニットの台数を含みます。
- ※7. 照明器具の種類によっては、自立運転時に、ちらつく場合があります。
- ※8. 水銀灯は、高力率安定器使用のものに限ります。
- ※9. 接続室内ユニット：4方向天井カセット形(UT1形)5馬力(140形)×4台で算出した場合。照明等の電気機器の接続可能容量は、接続室内ユニットの組み合わせにより異なりますので、別途お問い合わせください。各接続室内ユニットと照明等の電気機器の接続容量は、合計2.8kVA以下としてください。

- 自立中の運転を許可した室内ユニットと運転を禁止した室内ユニット間では、同一リモコンでのグループ制御はできません。
- 自立運転中は発電を優先するため、空調制御性が低下する場合があります。自立運転中の能力は冷房 45.0kW、暖房 50.0kW です。能力は目安であり JRA 4058 条件で測定した値ではありません。
- 非常用発電機としては使用できません。
- 自立運転時、商用電源が復帰したことを電源切替盤で検知し自立運転が停止します。
- バッテリーは定期交換が必要です。
- 自立出力側のコンセント付近に室外ユニットに付属されている ” コンセントご利用に関してのご注意ラベル” を貼り付けてください。
- 自立運転ランプ、自立運転警報ランプは、LED 照光タイプを使用ください。

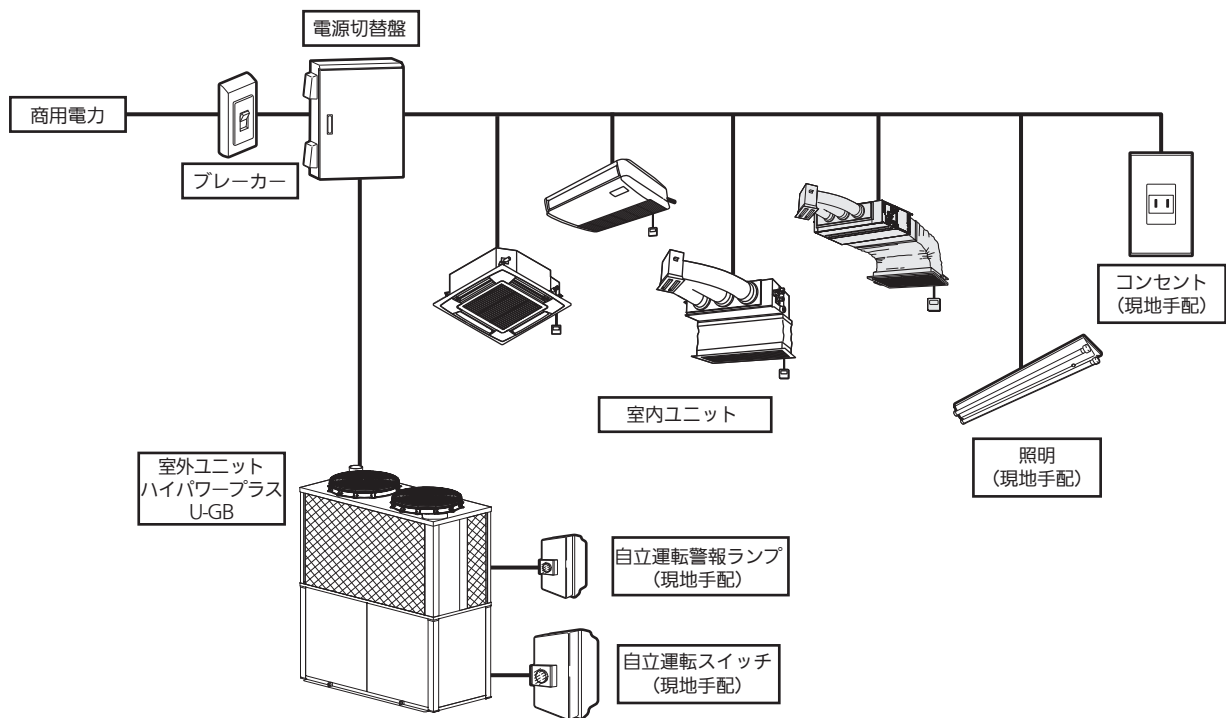
お願い

“コンセントご利用に関してのご注意ラベル” に記載されている

※1 接続容量  VA 以上は接続しないでください。

の  内に、コンセントの接続可能容量を油性マジック等の消えないもので記入してください

- 室外ユニット設置後、3か月以内（周囲温度：30℃以上の場合、1か月以内）に通電してください。（自己放電によるバッテリーの寿命が短くなる原因）
- ハイパワープラス親機 1台のシステム



単独設置の場合（例）

●自立時複数台発電システム

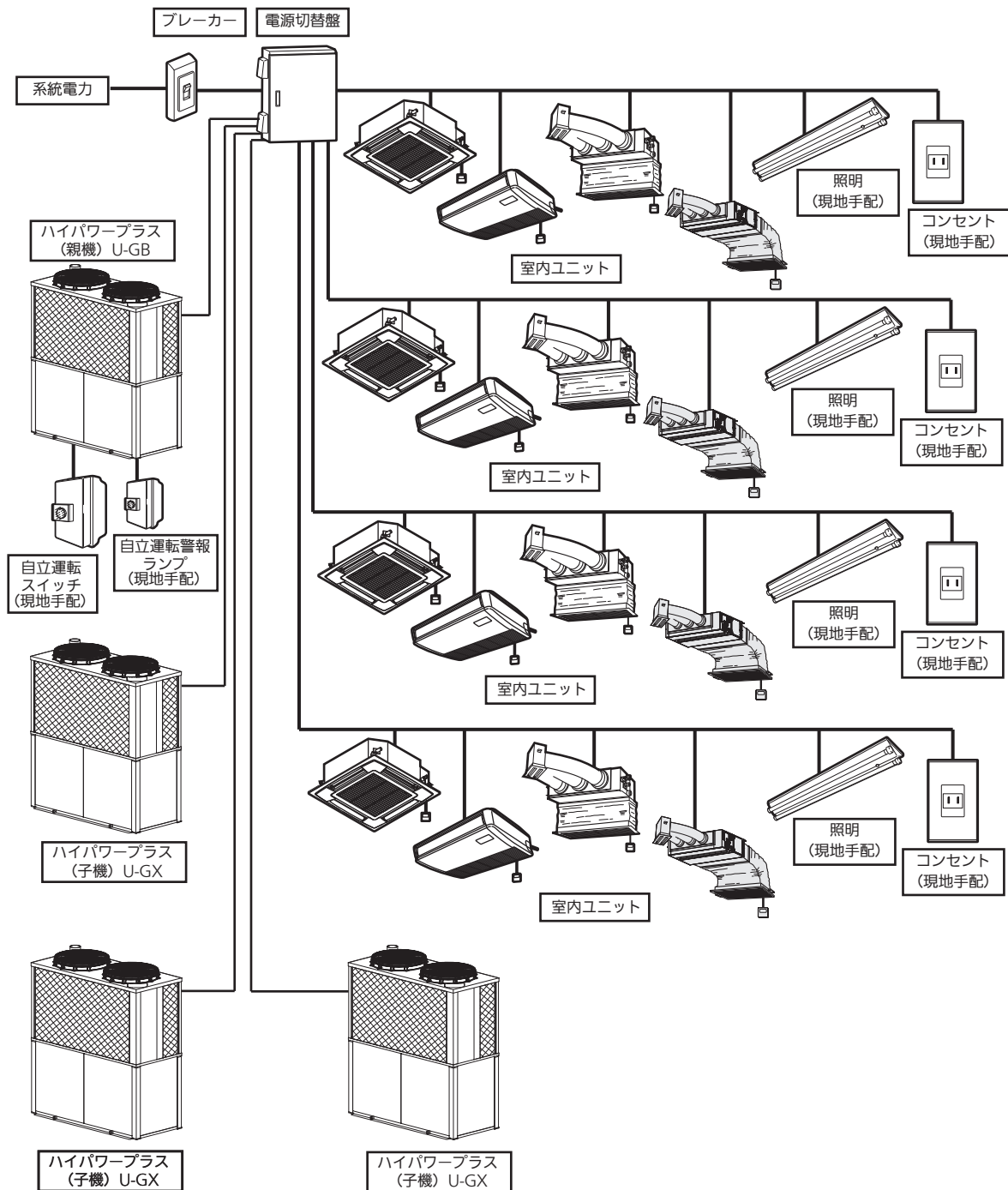
自立時複数台発電システムとは、親機 1 台+子機 最多 3 台を接続するシステムです。

自立運転時の親機の発電系統に子機の発電を連系します。

●自立時複数台発電システムで自立運転をおこなっている時に、特定の室外機が異常発生により発電を停止することがあります。その場合、電力供給が足りなくなり、停電・復電を繰り返すことがあります。このような場合、下記内容を実施して消費電力を減らすことで自立発電運転を継続することができます。

- ・優先度の低い照明を消す
- ・コンセントに接続した優先度の低い電気機器を OFF にする
- ・優先度の低い室内機の運転を OFF にする
- ・故障した室外機に対応する電源切替盤内の室内機用と負荷用のブレーカを OFF にする

●自立時複数台発電システムで、自立運転時に親機の室外ユニットが異常等で停止すると、接続されている子機の室外ユニットもすべて停止します。



自立時複数台発電システムの場合 (例)

■自立運転時の自立出力を照明・コンセントのみに利用する場合、室内ユニットは、系統電力に接続してください。

■自立時複数台発電システムは、U1 形ハイパワープラスと S 形エクセル機種 (エクセルプラス・ハイパワーエクセル) との混在接続はできません。